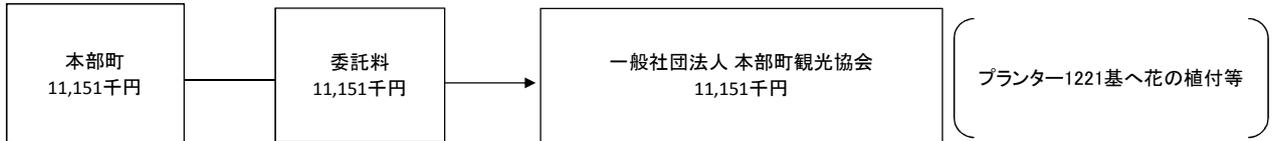


市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	花いっぱい運動の推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	観光地としての魅力を高めるため、国道及び県道沿い等に花の植え付けを行う。実施は、本部町観光協会へ委託する。植え付け作業は、町内の各種団体から成る「本部町まちぐるみ花いっぱい推進協議会」で行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	18,000	18,000	9,416	9,416	11,302
		(b)予算現額	18,000	18,000	9,416	9,416	11,302
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計(b+d)		18,000	18,000	9,416	9,416	11,302
	B. 執行済額		17,867	17,990	9,078	9,284	11,151
	うち交付金充当額		14,293	14,392	7,262	7,427	8,921
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.3%	99.9%	96.4%	98.6%	98.7%
予算の状況の説明		当初の計画通りプランターへ花木の植付を行い、事業は計画通り適正に執行できた。不用額151千円については、委託の入札残や消耗品数量の減などによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	プランター植付の実施=1221基	目標	( )	( )	( )	( 1221基 )	
		実績				1221基	
	【参考指標】 プランター設置	目標	( 270基 (69.8%) )	( 125基 (80.6%) )	( 66基 (93.5%) )	( )	
		実績	270基 (69.8%)	66基 (75.5%)	66基 (93.5%)		
達成状況説明	平成27年度までに設置したプランターおよび既存プランター合計1221基へ年3回花木の植付を行い目標を達成することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	プランター植付の完了=1221基	目標	( )	( )	( )	( 1221基 )	( )
		実績				1221基	
	【参考指標】 プランター設置率 (5年間の設置目標に対する割合) (5年間設置目標:H27年度1,160基→1,008基に変更)(H24実績540基、H25実績270基、H26実績66基、H27実績66基)	目標	( )	( 125基 (80.6%) )	( 66基 (93.5%) )	( )	( 延1,008基 )
		実績		66基 (75.5%)	66基 (93.5%)		
	進捗状況説明	平成27年度までに設置したプランターおよび既存プランター合計1221基へ年3回花木の植付を行い目標を達成することができた。年3回植付することにより年間を通して花いっぱいの町づくりができた。またボランティアの人数も増え、沿道美化の意識強化にもつながった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	平成27年度までに設置したプランターおよび既存のプランターへ年間を通して花いっぱい町づくりを行うため、年3回の花木の植付を行った。	適切に維持管理のできないプランターが発生することがないように「本部町まぢぐるみ花いっぱい推進協議会」とより一層密に連携して植付作業について協議する必要がある。
	地域風土にあった花木を選定しているが、種類によっては高く伸びてしまい交通の妨げになってしまう懸念があるため、選定をさらに熟慮する必要がある。	県道、国道沿いの植栽マスなどもあるので、地植えできる植栽箇所を精査して「本部町まぢぐるみ花いっぱい推進協議会」や県等と協議する必要がある。
	ボランティアで植付作業をおこなっているが、プランターへの植付だけではなく、沿道の植栽マスへの地植えの要望もあるので検討する必要がある。	
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>「本部町まぢぐるみ花いっぱい推進協議会」とよりいっそう連携を密にし、協議会の元に花木の知識に長けている方や環境美化に積極的に取り組んでいる方などを召集した検討委員会を設置して花木の選定等を行う。</p> <p>プランターへの植栽だけではなく、地植えもできるよう検討を行う。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
11,151	11,151	8,921	2,230	0



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は、観光振興を目的として沿道美化活動の実績のある町観光協会を主体としており妥当と考える。また、当該契約は地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定により随意契約としている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○積算については、複数者見積による予算となっており妥当と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途に関しては額の確定時において確認を行い適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

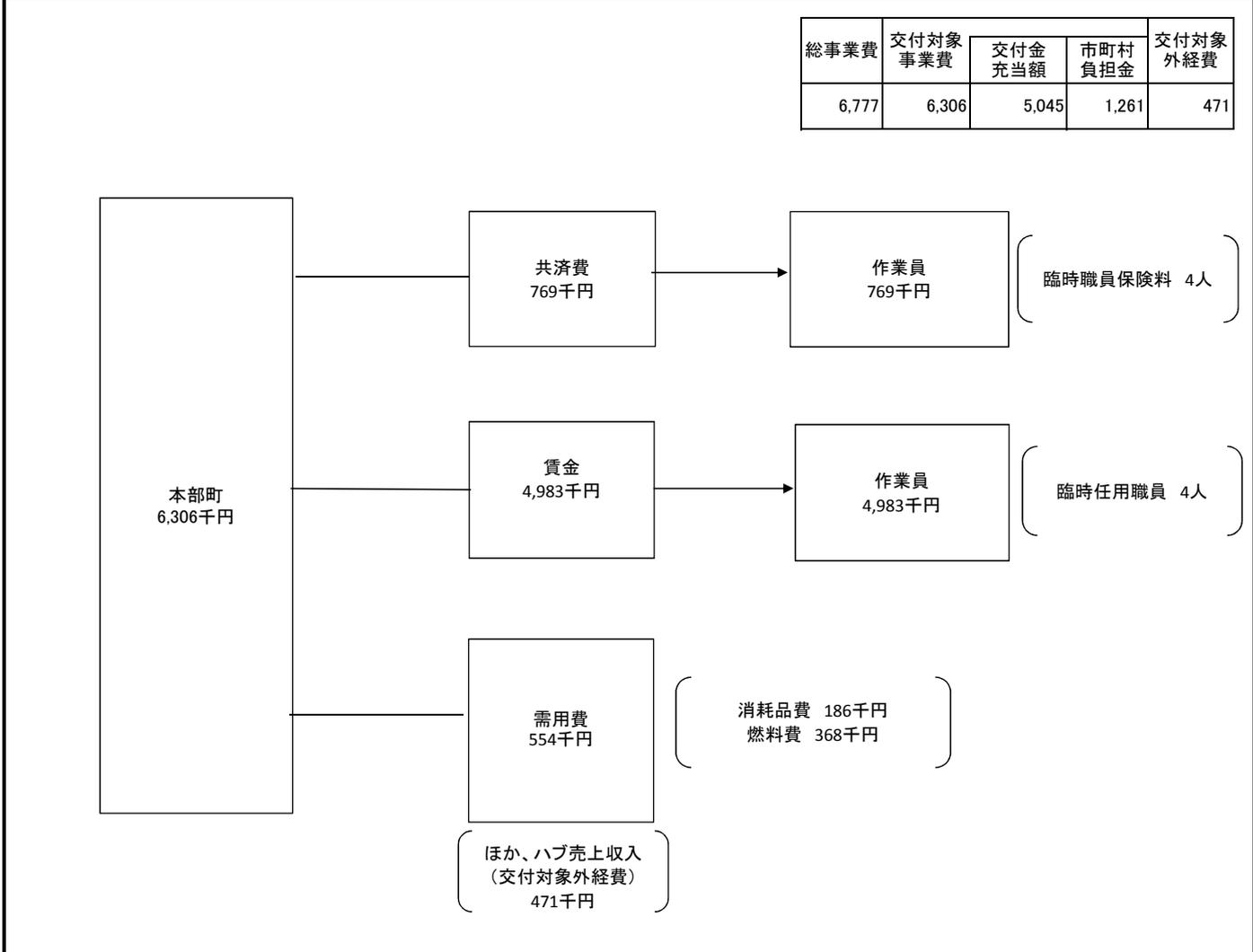
市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	ハブ咬傷防止事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	保険予防課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	<p>タイワンハブ捕獲トラップの購入及び設置・回収を行うことにより、個体数の減少及び拡大する生息域の抑制を図り、地域住民や観光客の咬傷事件を予防し、安全・安心な観光地づくりを目指す。</p>						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,205	7,702	7,907	7,931	
		(b) 予算現額	6,205	7,702	7,907	7,980	
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	49	
		(d) 繰越額	-	-	-	-	
	A. 計 (b+d)		6,205	7,702	7,907	7,980	
	B. 執行済額		5,009	6,466	6,453	6,306	
	うち交付金充当額		4,007	5,172	5,162	5,045	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)		80.7%	84.0%	81.6%	79.0%	
予算の状況の説明		<p>捕獲したハブの売上収入による精算及び事業を当初計画より1ヶ月早く終了したため、人件費及び燃料費等の減があり、事業費の不用額が1,674千円生じた。 年度内に売上収入の精算を行うために補助事業としては1ヶ月早く終了し、残りの1ヶ月は町単独で事業を行った。</p>					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ハブ捕獲器を町内約200カ所に設置	目標	( 150カ所 )	( 150カ所 )	( 150カ所 )	( 200カ所 )	
		実績	150カ所	150カ所	150カ所	200カ所	
		目標	( )	( )	( )	( )	
	実績						
達成状況説明	<p>タイワンハブの目撃事例・捕獲数が多い地域への捕獲器設置数を増やし重点的に行ったことにより、目標を上回る数を駆除することができた。また、タイワンハブの生息地域と、未確認地域の境界に捕獲器を設置し、生息域拡大の抑制をすることで地域住民や観光客の咬傷事件を予防し安全・安心な観光地づくりに寄与した。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	ハブ捕獲数年間:200匹	目標	( - )	( 200匹 )	( 200匹 )	( 200匹 )	( - )
		実績		264匹	229匹	309匹	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	<p>タイワンハブの目撃事例が多い地域への捕獲器設置を重点的に行うなど、設置場所を工夫することにより、平成28年度の捕獲目標を達成することができた。また、タイワンハブの生息が確認されていない隣接地域で目撃情報があったため、生息域が拡大していないかの確認も含めて、捕獲器設置エリアを拡大した。その後、隣接地域で捕獲はなかったが、次年度はさらに設置エリアを拡大し、生息域の把握と駆除に努める。</p>						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	引き続きタイワンハブの目撃事例が多い地域への捕獲器設置を重点的に行ったことにより、捕獲目標を達成することができた。 本町でのタイワンハブ咬傷被害はほとんど発生していないが、タイワンハブの捕獲数が大きく減少しているわけではないため、生息域の拡大が懸念される。 今年度は例年と比較し、ハブの活動が鈍くなる冬場でも捕獲数が多かった。そのため、ハブへの意識が薄れる冬場でも注意喚起を促す必要がある。	現在のハブ対策については、捕獲器の設置による直接捕獲や、草刈りやハブフェンス等の環境整備以外に有効な対策がないため、今後県や専門機関等による、より効果的・効率的な防除方法の確立が望まれる。 また、本町だけではなく、タイワンハブの生息が確認されている隣接する自治体との連携を密にして、地域及び県全体での撲滅に向けた取り組みが必要である。 今までタイワンハブが確認されていなかった地域で目撃事例があった際は、生息域拡大を防ぐためにも早急に捕獲器設置を行うなど、迅速な対応が求められる。 ハブの活動が鈍くなる冬場でも捕獲されていることから、夏場だけでなくハブへの意識が薄れる冬場においても注意喚起を促す必要がある。

**今後の取り組み方針**

引き続きタイワンハブ未収地域の駆除を重点的に行い、捕獲器の設置数を増やして、個体数及び生息域拡大の抑制に努める。生息が確認されていない隣接地域での目撃情報があったことから、今後は捕獲器設置エリアを拡大し、生息域の確認と抑制に努める。現在行っている対策の他に新たに有効なハブ防除方法等が県や専門機関等から示された際は関係機関と連携し生息域の抑制に取り組む。また、夏場だけでなく、冬場でもハブに注意するよう注意喚起を行う。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○作業員は知識、実績等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、売上収入の清算のため1ヶ月早く事業を終了し、それに伴い人件費等の減があったため約20%の不用額が生じたが、適正な規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途についてはハブ捕獲で使用するマウスの飼料費や捕獲器購入など、事業目的達成の観点から必要なものである。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町
------	-----

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	伝統興行観光化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-1-(1)
担当部署名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成25~28年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				III-1-(1)

事業内容  
 沖縄の伝統興行である「闘牛」や「闘山羊」を後世へ継承していくために、ナイター闘牛や闘山羊大会を定期開催することで伝統興行の活性化を図る。また、闘牛舎及び付帯設備を整備することで闘牛文化継承者の負担を軽減し、伝統興行の継承に寄与する。

実施方法  
 直接実施     委託     補助     負担     その他 ( )

		25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	26,500	5,535	5,010	-	40,969
	(b) 予算現額	26,499	25,655	54,293	-	42,840
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1	20,120	49,283	-	1,871
	(d) 繰越額	0	0	0	31,760	0
	A. 計 (b+d)	26,499	25,655	54,293	31,760	42,840
	B. 執行済額	19,503	14,616	21,353	31,750	32,801
	うち交付金充当額	15,602	11,692	17,082	25,400	26,241
	次年度繰越額	0	0	31,760	0	0
	執行率 (%) (B/A)	73.6%	57.0%	39.3%	100.0%	76.6%
予算の状況の説明	不用額については、イベント開催における委託料の清算により829千円の不用額が生じた。また、新聞広告料は、琉球新報社が共催となったことに伴い、広告枠のサイズに変更が生じたため162千円の不用額が生じた。公衆トイレの下水処理方法を浄化槽設置から下水道接続に変更及び工法の変更により、8,862千円の不用額が生じた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度
		・伝統興行の実施:3回	目標 ( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )	( 3回 )
	実績	3回	3回	3回	3回	
・公衆トイレの整備	目標 ( - )	( - )	( - )	( 公衆トイレ整備 )		
	実績	-	-	-	公衆トイレ整備完了	
達成状況説明	本部闘牛組合、瀬底島ピージャーオーラサイ保存会の共同開催により、本部町の伝統文化を広く提供するイベントとして「もとぶ観光文化フェスタ」を3回開催することができた。課題であった、イベント広場の公衆トイレを建築することができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		・伝統興行の実施による観客数:1,377人(過去2年間の実績の平均値)	目標 ( )	( 900 )	( 1,377 )	( 1,377 )	( )
			実績	1,377名	981名	1,116名	
		・公衆トイレの整備完了:1棟	目標 ( )	( - )	( - )	( 1棟 )	( )
	実績	-	-	1棟			
進捗状況説明	伝統興行の実施については、第10回目のイベント開催時に台風接近による開催延期が発生し、集客目標に261名届かなかった。公衆トイレの整備については、計画通り完了することができた。						

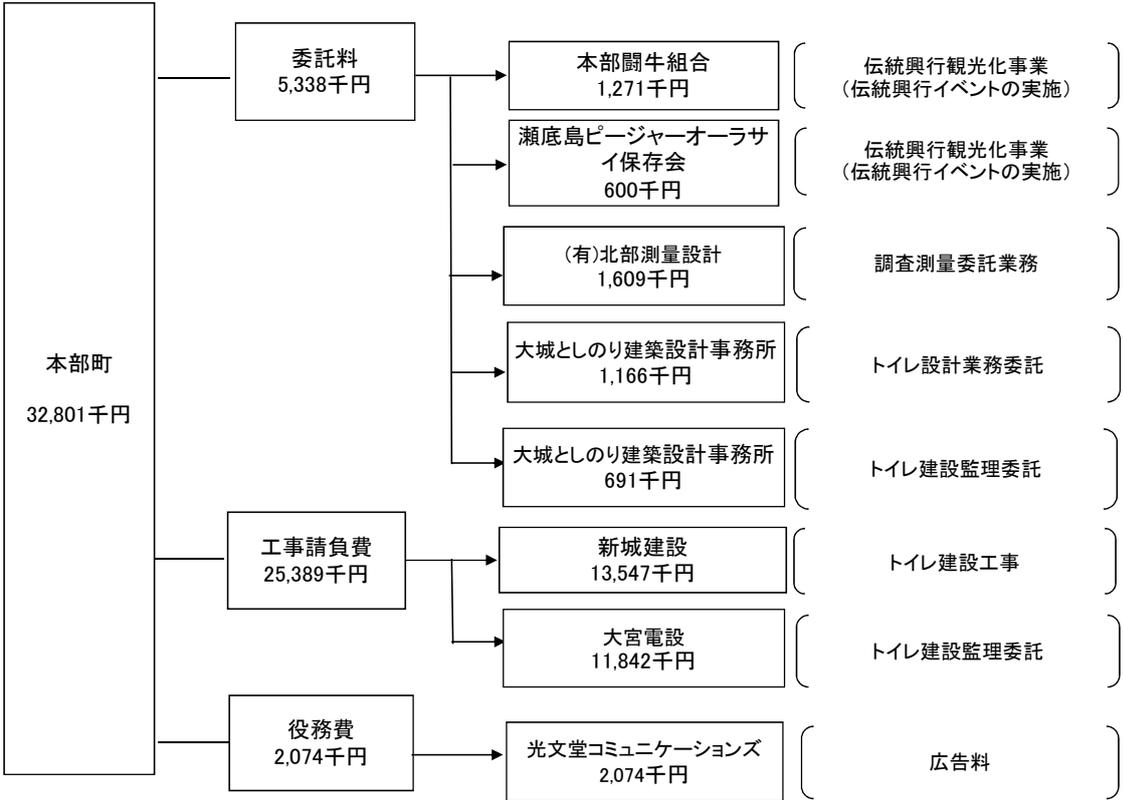
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風接近によりイベント開催を延期した際、前売りチケットの払い戻し対応が生じた。また、イベント開催時に降雨がなくとも、当日雨が降るとチケットの払い戻しが発生していることから、雨天時も観客が安心して来場できる環境を整備する必要がある。</li> <li>・昨年度と比較してイベント1回あたり87名来場者数が増加しているが、自立運営に向け、引き続き新規の来場者とリピーターを増やす工夫が必要である。</li> <li>・闘牛や闘山羊と抱き合わせで行うサブイベントとして、町指定無形民俗文化財の満名棒(棒術)や、角力(沖縄相撲)、琉球舞踊等、複数の伝統芸能を取り入れることができたが、継承者の不足等により出演調整に時間を要したため、十分なイベント周知期間を確保できないことがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全天候対応とするための環境整備を行う必要がある。</li> <li>・新規の来場者を増やす方策として、現在行っているホテル等への周知のほか、マスコミや旅行雑誌への情報提供を行い、多角的に情報を拡散していく必要がある。</li> <li>・イベントの日程や内容の確定については、早期の取り組みが必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・雨天に左右されない安定したイベント運営と来場者の確保のため、全天候型の施設整備に向けた検討を行う。
- ・イベント日程や内容を早急に確定し、マスコミや旅行代理店、ホテル等多方面にイベント情報を拡散し、新規来場者数の増加に向けた周知に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
32,801	32,801	26,241	6,560	0



資金の 使途の 流れ、 費用 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○イベント実施を委託した団体は、地域団体を選定する必要があり入れでは対応できなかったため、随意契約で妥当であったと考えている。広告に関しては、掲載料金が一律であり競争が生じないため随意契約としている。それ以外の契約についても、入れなどを行い適正な執行に努めた。 ○事業収益の清算、工事費の設計変更に伴う不要額が生じたが、予算規模については適正な規模であった。 ○費目、使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	本部町2大まつり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	本部町の2大まつりである海洋まつりと桜まつりを充実させ、本部町の魅力を観光客に周知し観光産業の活性化を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
		(a) 当初予算額	26,213	26,624	26,631	26,633	
	(b) 予算現額	26,213	26,624	26,631	26,666		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	33		
	(d) 繰越額	-	-	-	-		
	A. 計 (b+d)	26,213	26,624	26,631	26,666		
	B. 執行済額	26,067	26,468	26,375	26,588		
	うち交付金充当額	20,853	21,174	21,099	21,270		
	次年度繰越額	0	0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)	99.4%	99.4%	99.0%	99.7%		
予算の状況の説明	執行率99.7%であり計画通り適正に執行できた。予算の増額については、通勤手当の支給が平成28年度より開始したため増額変更を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況					
		25年度	26年度	27年度	28年度		
	2大まつりの実施 海洋祭り 7月	目標	( 1回 )	( 1回 )	( 1回 )	( 1回 )	
		実績	1回	1回	1回	1回	
	2大まつりの実施 桜祭り 1月	目標	( 1回 )	( 1回 )	( 1回 )	( 1回 )	
		実績	1回	1回	1回	1回	
達成状況説明	<p>海洋祭り 7月22日(金)は、前夜祭としてナイター闘牛大会を開催し、7月23日(土)～7月24日(日)の期間においては、ハーリー大会やステージイベントなど計画通り実施する事ができた。</p> <p>桜祭り 1月21日(土)～2月5日(日)までの16日間、ミス桜発表会やキャラクターショー、会場内を散策しながら楽しめるスタンプラリーなど様々なイベントを計画通りに実施する事が出来た。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
		2大まつり来訪者数 海洋祭り (2日間合計)	目標 ( )	( 10,000名 )	( 10,000名 )	( 10,000名 )	( )
		実績		3,043名	10,790名	8,855名	
	2大まつり来訪者数 桜祭り (期間中1日平均)	目標	( )	( 10,000名/日平均 )	( 10,000名/日平均 )	( 10,000名/日平均 )	( )
		実績		10,528名/日平均	9,639名/日平均	9,850名/日平均	
	進捗状況説明	<p>・イベント内容の充実、事前告知の強化、シャトルバスの運行を企画し実行した。</p> <p>・海洋祭り、桜祭りともに計画通りに実施する事が出来、成果目標である目標人数には、若干及ばなかったものの概ね達成する事が出来た。</p> <p>※目標に及ばなかった理由 【海洋祭り】H28は、メイン会場となりにサブ会場を設けた事から若干、来訪者が分散されたと思われる。来訪者のカウントは、メイン会場のみ計測している。 【桜祭り】桜の開花が遅れていた事もあり、まつり期間前半の来訪者が少なかった。</p>					

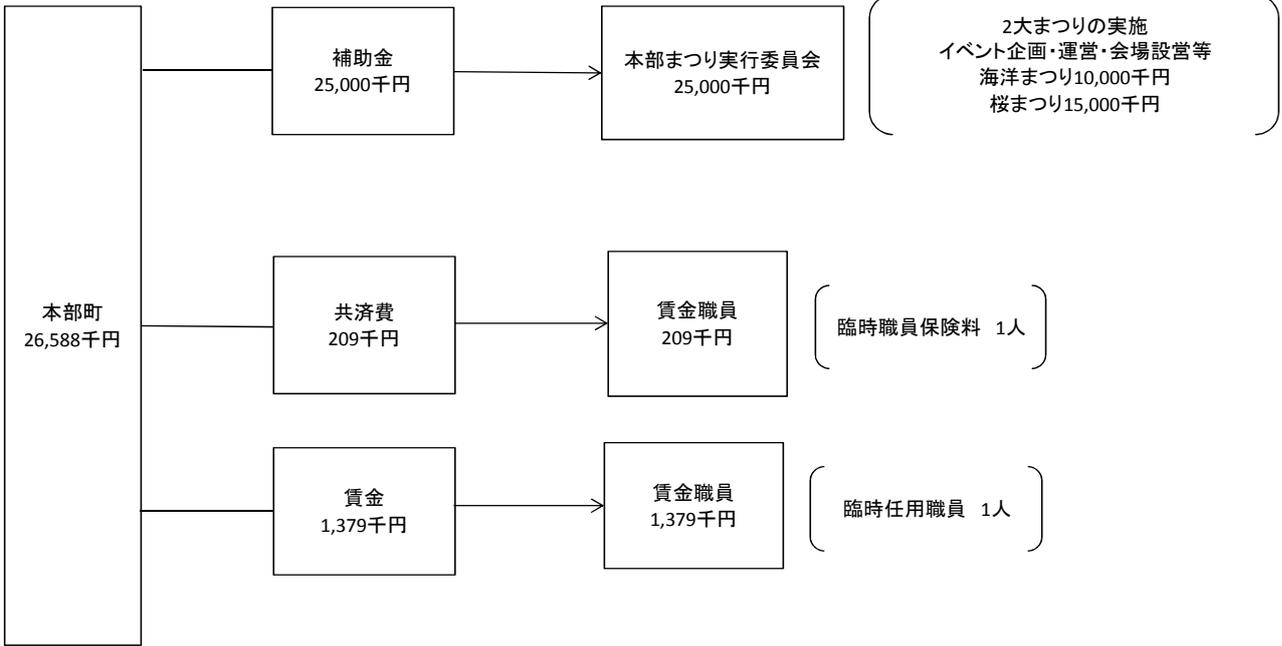
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>【会場レイアウトについて】 メイン会場が狭いことから、近くの民間地を借用し、メイン会場とサブ会場の両方で様々なイベントを実施するなど工夫を行った。</p> <p>【来訪者への対応について】 近年、外国人観光客が増加してきており、まつり会場に訪れる外国人観光客も少なくない。そのため、地域の大学から学生通訳ガイドを派遣して頂き対応した。</p>	<p>【会場レイアウトについて】 会場については、まだ活用されていない土地や施設もあることから様々なレイアウトを組むことが可能。その他、雨天時にも、来訪者が楽しめるイベントとなるよう屋内施設の活用なども検討する。</p> <p>【来訪者への対応について】 今後も外国人観光客は増加することが見込まれているので、引き続き地域の大学と連携を図りながら通訳ガイドを派遣してもらい対応を行う。</p>

**今後の取り組み方針**

一括交付金を活用した本事業は、平成28年度で終了となるが、民間企業や大学等と連携を図り、引き続きイベントを開催することで本部町の魅力を発信する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

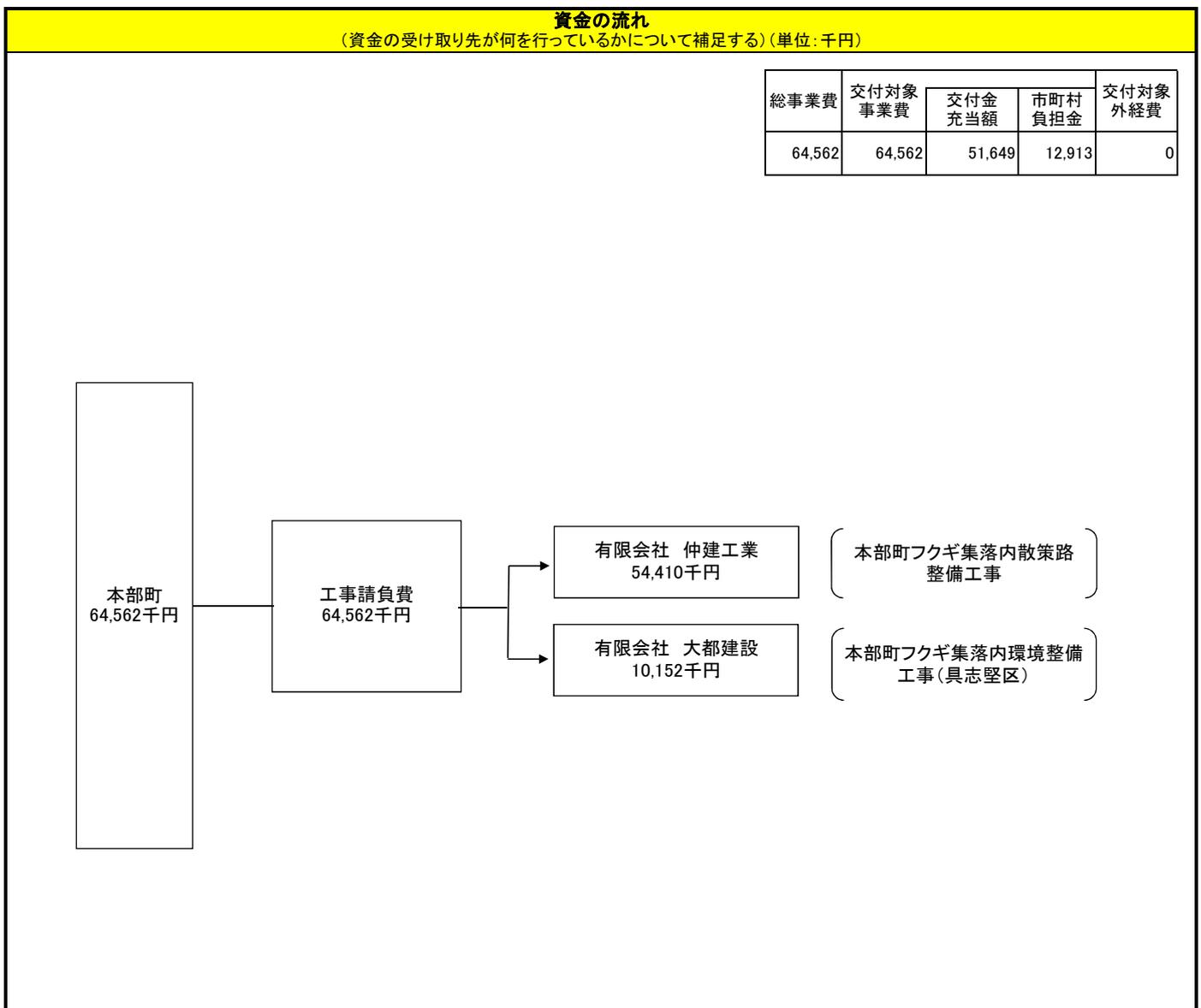
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
26,588	26,588	21,270	5,318	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は、観光協会や商工会等、その他町内の関連団体で組織している実行委員会であり適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助先への執行においては不用額は発生しておらず予算規模について、適正な規模であったと考えている。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○予算規模、受益者との負担関係についても、適正な規模であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤ 本部町フクギ集落整備事業		沖繩21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(6)-ア		
	建設課		事業実施（予定）年度 平成25～29年度		沖繩らしい風景づくり		
担当部課名			沖繩振興基本方針該当箇所		Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本部町の北部地域は、フクギ並木などで有名な観光名所である。今後の観光振興につなげるためにも、地域の集落景観の維持・保全等計画を推進するとともにフクギの剪定や案内板等を整備し、地域自然を有効活用した集落づくりに取り組む。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度（繰越）	26年度	27年度	27年度（繰越）	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	—	30,000	99,732	—	70,848
		(b) 予算現額	—	30,000	99,732	—	70,848
		(c) 増減額 (b-a)	—	0	0	—	0
		(d) 繰越額	30,523	—	—	84,049	—
		A. 計 (b+d)	30,523	30,000	99,732	84,049	70,848
	B. 執行済額		30,500	23,200	14,568	81,163	64,562
	うち交付金充当額		24,400	18,576	11,655	64,886	51,649
	次年度繰越額		0	0	84,049	0	0
	執行率（%）(B/A)		99.9%	77.3%	14.6%	96.6%	91.1%
予算の状況の説明		不用額6,286千円については、資材確保の困難により施工数量の減などによるものである。					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	フクギ集落の散策路・案内板等の工事実施	目標	・フクギ集落の案内板等の工事実施	・フクギ集落の散策路の工事実施			
		実績	・フクギ集落の案内板等の工事完了	・フクギ集落の散策路の工事完了			
	具志堅集落内フクギの剪定工事実施	目標		・具志堅集落内（フクギの剪定工事）実施			
		実績		・具志堅集落内フクギの剪定工事完了			
達成状況説明	散策路等の整備により、フクギ根の保護及び散策路の段差解消を行ったことで、地域集落の環境改善等が図られた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	フクギ集落の散策路・案内板等の工事完了	目標		・フクギ集落の案内板等の工事実施	・フクギ集落の散策路の工事完了		
		実績		・フクギ集落の案内板等の工事完了	・フクギ集落の散策路の工事完了		
	具志堅集落内フクギの剪定完了	目標			・具志堅集落内フクギの剪定完了		
		実績			・具志堅集落内フクギの剪定完了		
	進捗状況説明	整備にあたり、地域と何度か協議を行い地域環境に即した整備を行ったが、資材の確保ができず未整備箇所が残った。よって、一部目標達成となった。引き続き、地域の集落景観の維持・保全等を進めていく必要があると考えられる。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本地域(備瀬・具志堅)において、施設整備後には定期的な維持管理が必要となることから、地域住民の協力が課題となっている。	地域との協議を重ねて整備を進めているが、フクギの生育により将来に向けてフクギの剪定など、維持管理についてさらなる地域住民の理解と協力を得る必要がある。
	<b>今後の取り組み方針</b>	
観光客への配慮として散策路の清掃(フクギの落ち葉)や将来に向けてのフクギの剪定など、維持管理についてさらなる地域住民の理解と協力を得る必要がある。		



資金の流 れ、 費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	観光漁業実証調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(1)-イ		
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成26~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本町の有する水産資源の魅力に触れる体験型観光プログラムの構築を図るため、中層型浮漁礁等を活用した実証試験を行う。観光協会、漁業協同組合と連携し受入体制の強化を図り、「ここでしか味わえない」をキャッチフレーズに観光地としてのブランド力を向上させる。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		31,742	14,200	0	8,208	
			27,393	14,200	0	8,208	
			▲4,349	0	0	0	
			0	0	3,240	0	
			27,393	14,200	3,240	8,208	
	B.執行済額 うち交付金充当額		27,393	10,907	3,176	8,208	
			21,914	8,725	2,541	6,566	
	次年度繰越額		0	3,240	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100%	76.8%	98.0%	100%	
予算の状況の説明	計画通り事業は適正に執行できた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)	達成状況					
	観光プログラム実証 ・体験型観光の実施及びデータ収集	目標	(計画及び実証試験の実施)	(実証試験の実施)	(実証試験の実施)		
		実績	事業全体計画の策定実証試験の実施	実証試験の実施	実証試験の実施		
	目標						
	実績						
達成状況説明	本町の有する水産資源を活かした観光プログラムの確立に向け各種体験メニューの実施を行った。 中層型浮漁礁を用いた観光体験ツアーの実施や本町で生産されている養殖クロマグロの町内消費拡大に向けた取組を行った。 新たな取組みとして、生簀を用いた活魚販売が開始できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)	
	町内水産資源を活かした体験型観光の実施を行い、観光プログラムの構築に向けデータ収集を行う。	目標	( )	( )	( )	(実証試験実施データ収集)	( )
		実績				実証試験実施データ収集	
	【参考指標】 中層型浮漁礁を2基設置し、観光プログラム確率に向けた計画策定及び実証試験の検証を取りまとめる。	目標	( )	(魚礁2基設置計画策定実証試験)	(生簀2基設置実証試験実施)	( )	( )
		実績		魚礁2基設置完了計画策定完了実証試験実施	生簀2基設置実証試験実施		
進捗状況説明	・体験型観光のメニューの一つとして魚礁を活用した釣り体験メニューの構築に取り組んでいる。前年度までは、受け入れ態勢の構築を主な取り組み内容としていたが、今年度は対外的なPR活動を主に行った。 ・養殖マグロ等、町の観光商材として期待される水産物の安定供給及び町内消費の拡大に向けた取組みを行っているが、積極的なPR活動の実施により、飲食業者等の取扱い実績は増加傾向にある。外国人観光客からのニーズも多く、引き続き消費拡大に向けた取組を行う。 ・生簀で魚をストックすることが可能となったことから安定した供給体制の中で活魚販売が展開されるようになった。活魚の販売は観光客からも好評であるため今後の展開に期待感もてる。						



市町村名	本部町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	1-⑧	観光地安全対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成27～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	本町には、県内最大の観光施設である沖縄美ら海水族館があり、県内外から年間430万人もの観光客が訪れており、安心安全な観光地づくりが課題となっている。そこで、本町の主要道路に防犯カメラを設置し、安心安全な観光地づくりを図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,072	6,513			
		(b) 予算現額	4,072	6,513			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
	A. 計 (b+d)		4,072	6,513			
	B. 執行済額		4,072	5,803			
	うち交付金充当額		3,257	4,643			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	89.1%			
予算の状況の説明		当初の計画通り防犯カメラを設置し、事業は計画通り適正に執行できた。不用額710千円は入札残によるものである。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	防犯カメラの設置工事:3台	目標	( 2台 )	( 3台 )	( )	( )	
		実績	2台	3台			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	多くの観光客が訪れる塩川と、今帰仁城跡への車が通過するハーソー公園及び伊豆味地区に防犯カメラを計3台設置した。設置場所の付近を24時間監視できるようになり、一定期間録画したデータも保存できるようになった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	防犯カメラ3台の設置完了	目標	( )	( 2台 )	( 3台 )	( )	( )
		実績		2台	3台		
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	防犯カメラを設置したことで、付近の防犯対策や交通事故の防止等につながり、安全な観光地づくりに寄与することができた。					

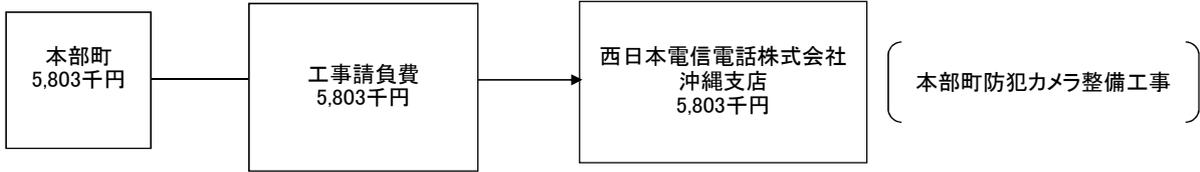
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>近年、多くの観光客等が訪れるようになり、殺人事件などの凶悪事件も発生し、地域からも安全な観光地づくりのために防犯カメラを設置するよう要望があった。</p> <p>平成28年度については、多くの観光客が訪れる塩川と、今帰仁城跡への車が通過するハーソー公園及び伊豆味地区に防犯カメラを計3台設置した。防犯カメラが設置されたことで、犯罪や事故の発生が抑制された。本部警察署とも密に連携し、犯罪や事故等が発生した場合、速やかに防犯カメラの情報を提供できる体制になっている。</p>	<p>カメラで監視している場所は、固定されており、手動で監視場所を変更することができる。今後は状況に応じて、監視場所を変更するなどの工夫が必要である。</p>

**今後の取り組み方針**

地域住民や観光客等への防犯カメラ設置について、観光マップ町のホームページ等で周知することにより、観光地の安全対策をPRし、交通事故等の発生防止及び地域の防犯対策を図る。  
またカメラが監視する場所は固定されているが、状況に応じて管理者が随時調整を行うことで対応していく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
5,803	5,803	4,643	1,160	0



資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○本事業は、NTTが整備した北部広域ネットワークに防犯カメラを整備する内容となっており、ネットワークを構築したNTTと随意契約にて整備した。</p> <p>○予算規模等についても他社から見積等を取り、適正な金額となっている。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑨	渡久地港駐車場整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部署名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成28～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	本部町の水納島へ渡る航路が発着する渡久地港の旅客ターミナル及びその周辺には駐車スペースが少なく、水納島を訪れる観光客に不便を強いていることから、観光客等の利便性向上させるため駐車場を整備する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	6,715				
		(b) 予算現額	6,715				
		(c) 増減額 (b-a)	0				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	6,715				
	<b>執行の状況</b>	B. 執行済額	6,597				
		うち交付金充当額	5,278				
		次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)	98.2%					
予算の状況の説明	当初計画の通り、委託料(実施設計)と工事請負費(駐車場整備工事)の予算を執行した。不用額118千円は入札残によるものである。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	駐車場の整備 383㎡	目標	( 383㎡ )	( )	( )	( )	
		実績	383㎡				
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	渡久地港周辺に383㎡の駐車場を整備し、観光客等の利便性向上を図ることができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	渡久地港周辺における駐車可能台数の増加=12台	目標	( )	( 12台 )	( )	( )	( )
		実績		16台			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	383㎡の駐車場を整備するにあたり、実施設計の段階で16台分の配置が可能となり、敷地の有効活用及び観光客の利便性向上のため、16台分の駐車場を整備した。					

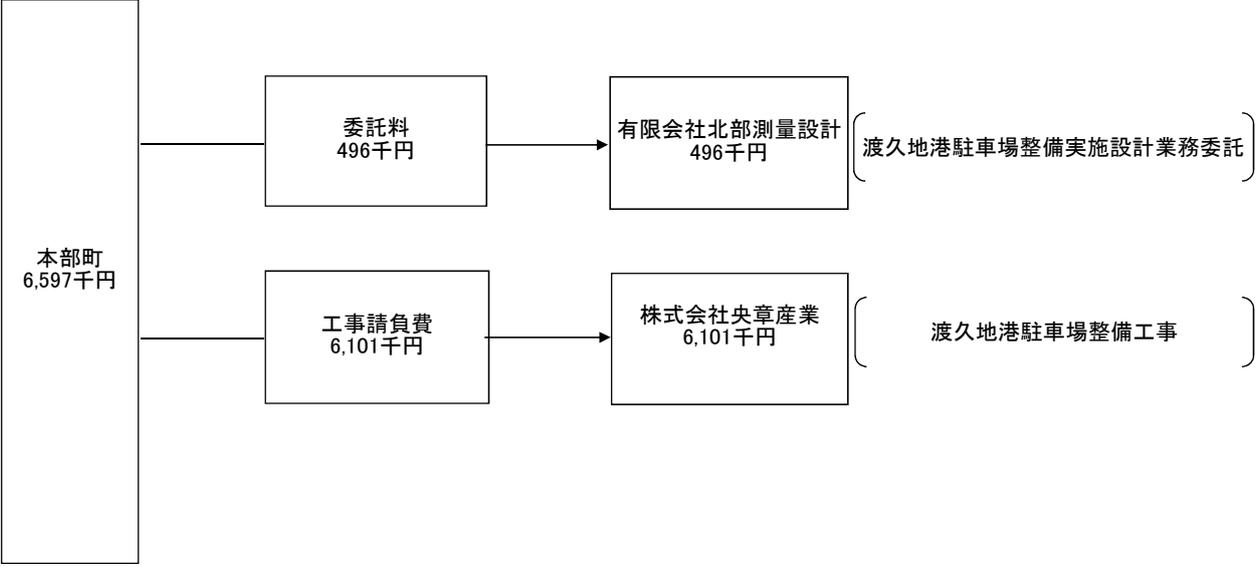
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当該駐車場は観光客の利便性向上を図ることを目的としているため、無断駐車等による、観光客の利用妨げが起こらないよう適切な管理が必要である。	無断駐車等による観光客の利用の妨げにならないよう、地域と連携して管理を行う。

**今後の取り組み方針**

観光客の利用の妨げにならないよう、地域と管理に係る協定書を締結し、管理者の配置等を行う。平成29年度以降も、観光客の利便性向上を図るため、駐車場の用地交渉を進めていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
6,597	6,597	5,278	1,319	0



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○実施設計業務は、地方自治法施行令及び町契約規則に基づき、随意契約を行っており、妥当であったと考えている。 整備工事は、町の指名審査会で選定した業者による指名競争入札で請負業者を決定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は、事業費の2%未満であり、適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町
------	-----

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑩	観光案内情報板整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部署名	総務課	事業実施(予定)年度	平成28~29年度	観光客の受入体制の整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容  
 本部町では、地域の特色を生かした様々なイベントが開催されており、イベント等の周知は、ホームページ、広報誌、新聞折り込み等を活用しているが、観光客に十分周知できていない状況である。また、台風襲来時の注意喚起や交通機関の運行状況、イベント中止の情報なども伝達しなければならない。そこで、観光客にイベント等を周知するため観光案内情報板を整備する。

実施方法  
 直接実施     委託     補助     負担     その他 ( )

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a) 当初予算額	25,288				
	(b) 予算現額	25,288				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	-				
	A. 計 (b+d)	25,288				
	B. 執行済額	25,056				
	うち交付金充当額	20,044				
	次年度繰越額	0				
	執行率 (%) (B/A)	99.1%				
予算の状況の説明	当初の計画通り観光案内情報板を設置し、事業は計画通り適正に執行できた。					

活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)	達成状況				
		28年度	29年度	30年度	31年度	
	観光案内情報板の設置:2台	目標	( 2台 )	( )	( )	( )
		実績	2台			
	目標	( )	( )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	本部町の多種多様なイベント情報の周知が可能となった。また、台風襲来時には注意喚起や交通機関の運行状況、イベント中止の情報なども伝達することが可能となった。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)	基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
		観光案内情報板2台の設置完了	目標	( )	( 2台設置完了 )	( )	( )
	実績			2台設置完了			
	目標	( )	( )	( )	( )	( )	
実績							
進捗状況説明	観光案内情報板の設置を完了したことで、観光客に対して各種情報の周知が容易になり、魅力的な観光地づくりができた。						

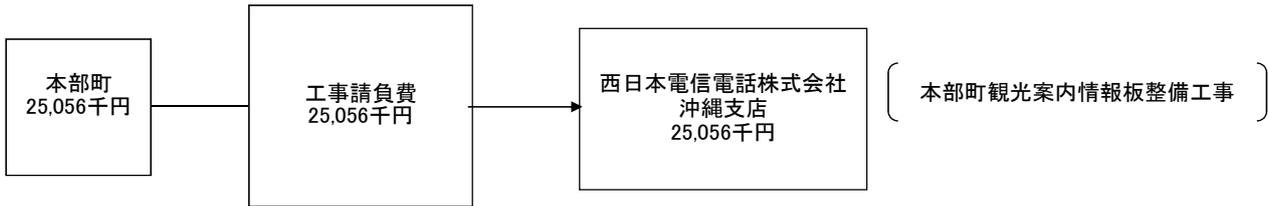
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光案内情報板に掲載する情報については、観光客が見やすくかつ、分かり易い内容表示に努める必要がある。	掲載する内容は大きく見出しを付けたり、画像や地図の掲載することで情報板を観た者が情報を認識しやすいレイアウトとする。 また、掲載内容についても現在は町内の主要イベントのみの告知となっているが、地域の小さなイベントも広く周知できるよう、本施設を活用していく。

**今後の取り組み方針**

画像や地図などの直観的に分かり易い表示に努め、多くの観光客へ本町の情報発信を行っていく。  
また、地域のイベントのきめ細やかな周知、外国人の観光客にも理解できるよう観光情報について多言語で表記する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
25,056	25,056	20,044	5,012	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、指名競争入札により適切に選定を行った。 ○予算規模等についても他社から見積等を取り、適正な金額となっている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	園芸農業防災施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア	
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 III-1-(6)	
事業内容	沖縄県では台風の襲来や病害虫の発生により農作物の被害が大きくなるため、農家経営に対する不安や生産意欲の減退などの課題がある。そこで、農業生産物の産地化を図るため、台風対策用のハウス等の施設の導入を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	36,000	22,764	21,712	14,072	22,476
		(b) 予算現額	18,933	19,827	21,712	13,218	22,476
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 17,067	▲ 2,937	0	▲ 854	0
		(d) 繰越額	-	-	0	-	-
	A. 計 (b+d)		18,933	19,827	21,712	13,218	22,476
	B. 執行済額		18,833	12,190	20,314	13,218	19,581
	うち交付金充当額		15,066	9,752	16,251	10,574	15,664
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		99.5%	61.5%	93.6%	100.0%	87.1%
予算の状況の説明		不用額は生じているが、実施主体側の入札残によるものであり、計画通り事業は適正に執行できた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ビニールハウスの整備件数:5件	目標	( 5件 )	( 5件 )	( 3件 )	( 5件 )	
		実績	3件	5件	3件	5件	
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	目標である施設整備5件の整備が完了し、台風等の自然災害に強い安定した生産基盤が確保できた。農家の生産意欲向上にもつながっており今後の生産活動に期待できる。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	ビニールハウスの活用により生産性の向上の体制整備	目標	( )	( 体制整備 )	( 体制整備 )	( 体制整備 )	( )
		実績		整備5件完了	整備3件完了	整備5件完了	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	これまで、露地栽培では台風による被害や病害虫が発生し農作物への被害があり生産性が低かったが、施設導入により生産性が向上する体制整備が出来た。					

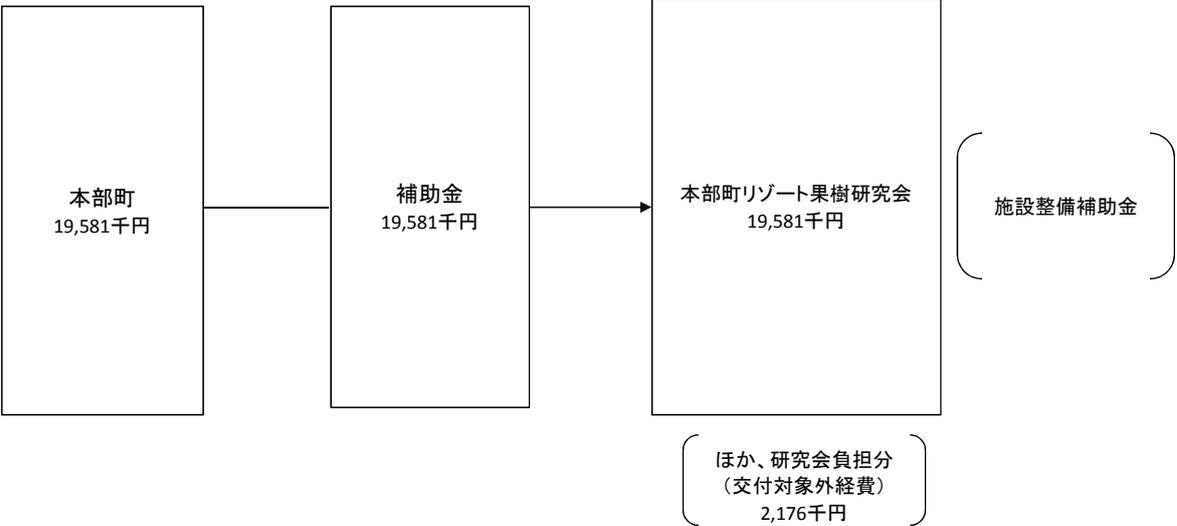
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の利用状況について確認するため、事業主体を通し栽培状況を定期的に報告させ、施設が活用されているか検証をおこなう必要がある。</li> <li>台風襲来後には施設の状況確認を行い適正管理等について指導を行なう必要がある。</li> <li>路地栽培とハウス栽培のメリット・デメリットを説明した上で整備する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハウス栽培における栽培技術の向上を目指し研修会等を定期的に開催する。</li> <li>施設管理において、特に台風時における対策指導などを行なう。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・今後とも町内農家の動向を注視し、施設整備の要望または需要があれば継続して事業の導入を検討する。  
また、作物についても野菜に限らず果樹など農家の要望に柔軟に対応することを検討する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
21,757	19,581	15,664	3,917	2,176



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、農協若しくは農業者で組織する団体を補助対象としており、交付条件を満たす研究会のみから要望があり選定を行ったため、選定は妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について、不用額は、実施主体の入札残によるものであり適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、実施要領に基づき負担をさせており妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については確定時に確認を行い、目的に即し、必要なものであったと判断した。

市町村名	本部町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-②	もとぶブランド牛基盤づくり支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
担当部署名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 Ⅲ-1-(6)		
事業内容	肉用牛生産農家及び農業生産法人のもとぶ牛ブランドの基盤創出のため、優良母牛の導入に対する補助を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算状況	(a)当初予算額	10,500	14,000	18,375	21,550	
		(b)予算現額	10,500	14,000	18,375	21,550	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		10,500	14,000	18,375	21,550	
	B. 執行済額		10,410	13,956	18,091	21,550	
	うち交付金充当額		8,328	11,164	14,472	17,240	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.1%	99.7%	98.5%	100.0%	
予算の状況の説明		当初の計画の導入頭数も達成でき、予算も適正に執行できた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	優良母牛導入の支援	目標	( 優良母牛導入の支援 )	( 優良母牛導入の支援 )	( 優良母牛導入の支援 )	( 優良母牛導入の支援 )	
		実績	優良母牛導入の支援実施	優良母牛導入の支援実施	優良母牛導入の支援実施	優良母牛導入の支援実施	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
達成状況説明	主に県外産の導入困難な優良系統牛の導入に係る経費の支援を実施し、当初の目標通り達成できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(29年度)
	優良母牛導入頭数:45頭	目標	( 0頭 )	( 35頭 )	( 45頭 )	( 45頭 )	( 述200頭 )
		実績		35頭	40頭	45頭	
			目標	( )	( )	( )	( )
			実績				
	進捗状況説明	県外の家畜セリ市場を中心に優良系統牛の導入を実施し、当初の計画通り導入できた。					

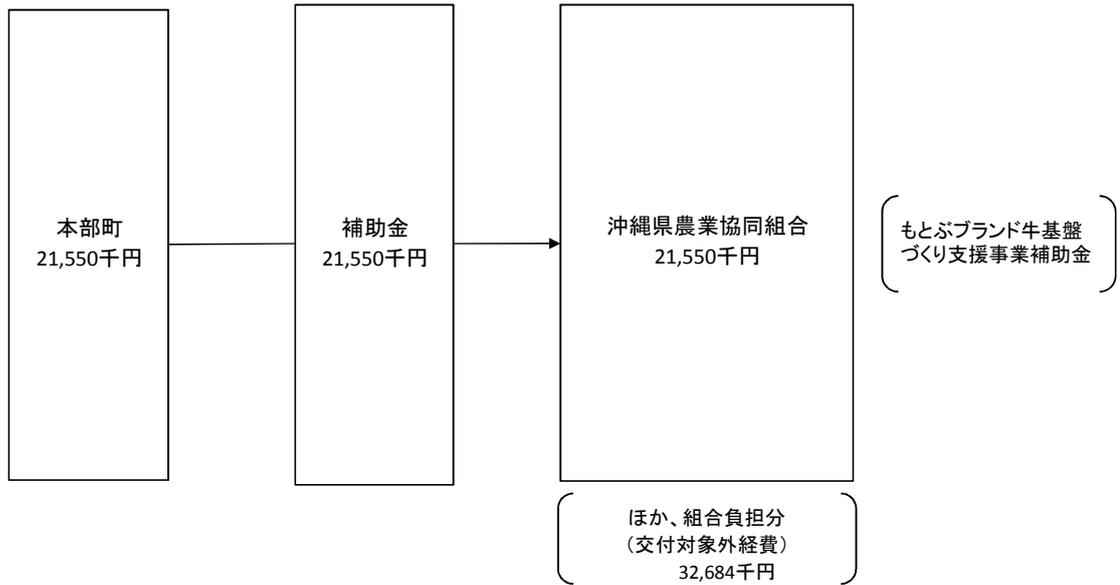
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	子牛価格が年々高騰し導入経費が上昇している。また、本事業により各農家の飼養頭数が増頭しており、家畜の事故が発生しやすくなっている。	県外の家畜セリ市場の市況等を注視し計画頭数の導入に努める。各農家の飼養頭数の増頭に伴い飼養管理が煩雑になる事から、事故抑制のため予防接種や飼養環境の整理に努める。

**今後の取り組み方針**

飼養頭数の増加に伴う事故の抑制に努めるとともに生産性、収益性の高い県外、県内の優良血統を導入する事によって安定的な農業経営を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
54,234	21,550	17,240	4,310	32,684



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は、本事業の交付対象要件を満たす唯一の団体であり、選定は妥当であると考えている。 ○予算規模について不用もなく事業規模及び内容に見合った適正な規模であった。 ○当該事業は公共性、公益性が高い事業であることから、負担割合は妥当であると考えている。 ○費用・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認した結果、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

<b>市町村名</b>		本部町					
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
<b>事業番号・事業名</b>	2-③ メイドインもとぶ産品成長産業化推進事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
						流通・販売・加工対策の強化	
<b>担当部課名</b>	商工観光課		<b>事業実施(予定)年度</b>	平成28~33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(6)
<b>事業内容</b>	<p>特産品生産者及び事業者の経営の安定化と産業の発展を図るため、販売支援員の配置、事業所に対する物産展等への出展助成等を行い、本部町の地域の特性を活かした特産品の販路拡大を支援する。</p>						
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	予算の状況	(a)当初予算額	11,751				
		(b)予算現額	11,784				
		(c)増減額(b-a)	33				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	11,784				
	B.執行済額		5,872				
	うち交付金充当額		4,697				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		49.8%				
予算の状況の説明		<p>販売支援員6人と賃金事務員1人の雇用を予定していたが、採用に時間を要したこと等により不用額が出た。また、物産展等への出展助成が、イベントが重なった事などから町内事業者の参加が少なく不用額が発生した。活動目標及び成果目標はほぼ達成出来たと言えるが、次年度以降、さらに効果的・効率的に予算を執行する。</p>					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	メイドインもとぶ産品のPR及び販売の支援	目標	( PR及び販売支援 )	( )	( )	( )	
		実績	5回支援				
	県内物産展への出展支援	目標	( 出展支援 )	( )	( )	( )	
		実績	5回支援				
	メイドインもとぶ産品のリスト化	目標	( もとぶ産品のリスト化 )	( )	( )	( )	
		実績	13業者の商品をリスト化				
	賃金1名	目標	( 1名 )	( )	( )	( )	
		実績	0名				
達成状況説明	<p>町特産品の販路拡大を目的に、販売支援員の配置、町内事業者が物産展等へ出展を行う際の助成、特産品をデータベース化するための特産品リスト作成に取り組んだ。賃金事務員1人の雇用を予定していたが、採用に時間を要したこと等により雇用実績は0名となった。</p>						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	新規取引契約数(10件/年)	目標	( )	( 10件 )	( )	( )	( )
		実績		10件			
	物産展等での販売目標(1回50万円×5回)	目標	( )	( 5回 )	( )	( )	( )
		実績		50万円以上×4回 50万円以下×1回			
	進捗状況説明	<p>販売支援員により本部町の特産品を町内販売業者と結び、販路拡大に寄与することができた。また、物産展において、販売支援員が特産品の機能性特徴や開発ストーリー等を説明することで消費者の購買意欲を刺激し、売上販売額目標の80パーセントを達成した。目標を達成しなかった1件については、町内事業者の出展が少数であったことが要因であるため、物産展等の周知を強化していく必要がある。</p>					

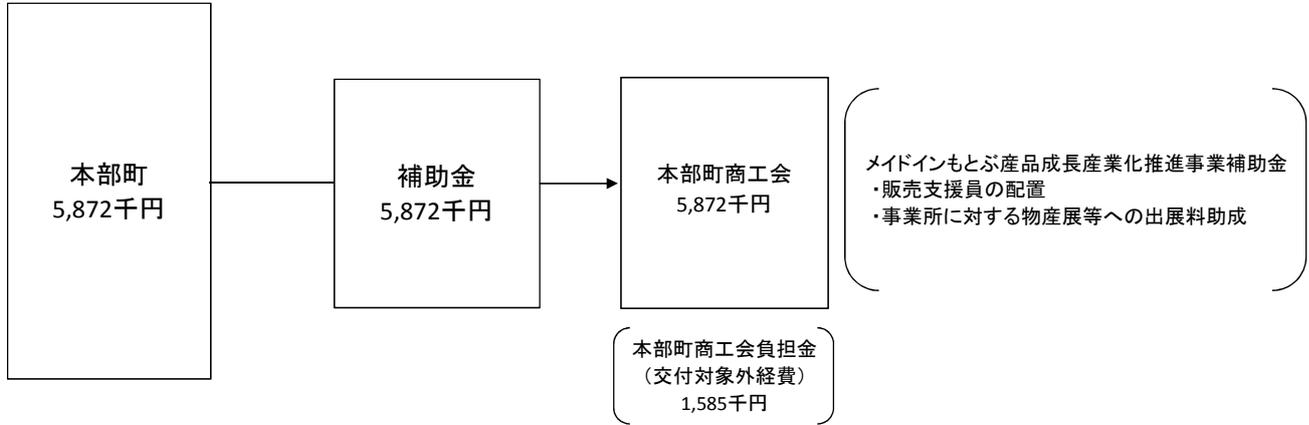
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本事業は、特産品の販路拡大を目的としていることから、消費者ニーズの変化を的確にとらえる必要があり、今後、販売支援員の研修会を開催し、PRの手法等を検討することで、消費者への訴求力を高めていく。また、同時に卸業者や小売店等、商品を取り扱う事業者への商談を強化していくことが課題である。	特産品の新たな販路を開拓するためには、商談の中で、商品そのものの説明だけでなく、その作り手や開発にかかるストーリーも含めたプロモーションが必要である。販売支援員は町内製造業者と密に連携し、商品の販路拡大をサポートする体制の構築を図る。

**今後の取り組み方針**

商工会で雇用する販売支援員と町内製造事業者等の連携を図り、特産品のPR力を高めていく。沖縄県内でも有数の観光地であることを活かし、町内の宿泊施設等においても、積極的に町特産品の取扱を推奨し、訪れる観光客へ紹介、販売できる体制を構築し町特産品の販路拡大を図る。また、町内製造事業者の県内外での物産展や商談会の参加に対して支援を行い、新たな販路の開拓、需要の確保をサポートし、町内特産品の原料となる第1次産業の振興へも繋げていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
7,457	5,872	4,697	1,175	1,585



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は本事業を円滑に実施できる唯一の団体であると考えられ選定は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額が発生したが、事業の効果向上を図るうえで必要な予算計上であり、予算規模としては適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○本事業は町の産品について網羅的に販路拡大を目指していく事業であり、公益性が高く受益者負担は妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・用途は事業費確定時に必要性を確認しており、適正である。

市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	モトブンチュ人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-1-(1)	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25~29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
事業内容	沖縄の伝統文化である琉球舞踊、琉球民謡、方言、遊び、エイサー等を通して触れ合う場、学ぶ場を提供し、沖縄独自の伝統文化の継承を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,257	5,202	4,973	4,973	
		(b)予算現額	4,257	5,202	4,973	4,973	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)繰越額	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)		4,257	5,202	4,973	4,973	
	B. 執行済額		4,137	5,202	4,670	4,973	
	うち交付金充当額		3,309	4,161	3,736	3,978	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		97.2%	100.0%	93.9%	100.0%	
予算の状況の説明		不用額、繰越もなく適正に執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	伝統文化継承教室開催240回 (三線、琉舞、沖縄民謡読み聞かせ、昔遊び、空手、やちむん絵付け、物作り)	目標	( 伝統文化継承教室 延開催180回 )	( 伝統文化継承教室 延開催240回 )	( 伝統文化継承教室 延開催240回 )	( 伝統文化継承教室 延開催240回 )	
		実績	伝統文化継承教室 延開催70回	伝統文化継承教室 延開催148回	伝統文化継承教室 延開催133回	伝統文化継承教室 延開催214回	
町内イベント等での体験型プレイショップ開催3回	目標	( 体験型プレイショップ 延開催3回 )					
	実績	体験型プレイショップ 延開催3回	体験型プレイショップ 延開催4回	体験型プレイショップ 延開催3回	体験型プレイショップ 延開催4回		
達成状況説明	教室開催214回の内訳は三線教室65回、民謡読み聞かせ92回、自然教室36回、昔あそび4回、紅型色挿し8回、しまくとぅば教室9回である。これまで、主に外部講師により教室等を開催してきたが、講師の確保が課題であった。平成28年11月から外部講師による教室等開催と並行して、事業主体である「未来を組み立てる子ども達」連絡協議会の職員が講師となり民謡読み聞かせ、自然教室、昔あそび、紅型、しまくとぅば教室を開催している。これにより、教室開催数は前年度と比較して1.6倍に増えたが、やはり外部講師の確保が困難であり、また、事業主体の職員が講師となる取り組みが遅かったため目標には届かなかった。 体験型プレイショップ開催については目標3回のところ4回開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	伝統文化継承教室参加者2,600人	目標	( )	( 文化伝承教室 延2,600人 )	( 文化伝承教室 延2,600人 )	( 文化伝承教室 延2,600人 )	( )
		実績	/	文化伝承教室 延1,732人	文化伝承教室 延1,060人	文化伝承教室 延1,844人	/
	体験型プレイショップ参加者800人	目標	( )	( 体験型プレイショップ 延600人 )	( 体験型プレイショップ 延600人 )	( 体験型プレイショップ 延800人 )	( )
実績		/	体験型プレイショップ 延229人	体験型プレイショップ 延41人	体験型プレイショップ 延211人	/	
進捗状況説明	教室参加者1,844人の内訳は三線教室264人、民謡読み聞かせ806人、自然教室388人、昔あそび66人、紅型色挿し131人、しまくとぅば教室189人である。事業主体である「未来を組み立てる子ども達」連絡協議会の職員が講師となることで教室開催数が増加したため、教室参加者数は目標には届かなかったものの前年度と比較して1.7倍に増えた。 体験型プレイショップでは月桃やアセローラを利用した石鹸作り体験、三線教室の生徒の発表、沖縄そば作り体験、紅型色挿し体験を実施した。目標3回のところ4回開催したが参加者数は目標の26%にとどまっている。 教室や体験型プレイショップの開催数が少ない、内容が利用者のニーズに合わない等の理由により参加者数が伸びなかったことが目標未達成の要因と考えている。						

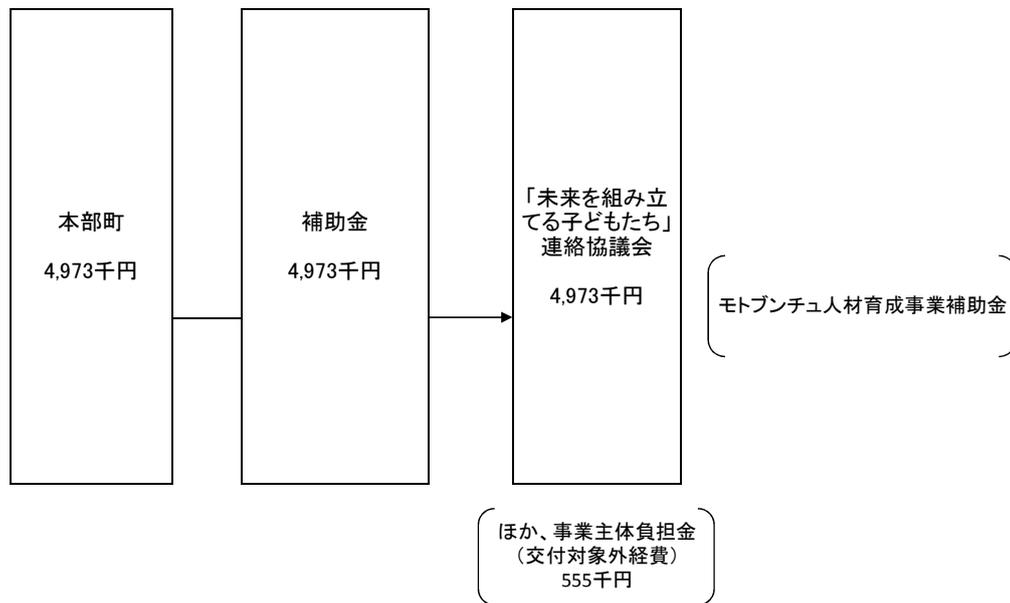
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	本事業を開催して4年が経過した。自由来館者を含む合計来館者数は減少傾向であり、来館者のニーズに合った教室や体験型プレイショップを開催する必要があるが外部講師の確保が課題でもある。	平成25年度から本事業を実施していることもあり、本事業の認知度は高くなっていると思われるが、自由来館者を含む合計来館者数は平成27年度8,943人(自由来館者7,842人)、平成28年度6,698人(自由来館者4,643人)と減少しているため教室開催数の増加や教室内容の見直しが必要である。

**今後の取り組み方針**

外部講師による教室等開催と並行して、職員が講師となり教室を開催することで平成28年度は教室開催数、参加者数が増加した。今後もこれを継続し、自由来館者を教室参加者に取り込み目標達成に努める。各教室の内容について参加者の評価や意見を収集し、魅力的な教室開催に努める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,528	4,973	3,978	995	555



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業主体は当初から本事業を実施し、本事業を円滑に実施できる唯一の団体であると考えられ選定は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は支出の60%を占める人件費が県最低賃金と本部町の規程を考慮しており適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業主体は自己財源が乏しい団体であるが、本事業は公益性が高く受益者負担は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は事業費確定時に必要性を確認し、町が毎月執行状況を確認しており、適正である。

市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	本部町学力向上学習支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 III-3	
事業内容	将来の沖縄振興を担う子どもたちの学力向上を図るため、学習支援員の配置を行う。町内小・中学校に学習支援員を配置し、国語及び算数・数学、及び必要に応じその他の主要教科において「授業支援」を行う。また計画的な「放課後支援」を行い学習の遅れている児童生徒へ習熟学習の支援を行い学力向上を図る。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	21,407	34,132	35,136		
		(b) 予算現額	21,407	34,986	35,521		
		(c) 増減額 (b-a)	0	854	385		
		(d) 繰越額	-	-	-		
		A. 計 (b+d)	21,407	34,986	35,521		
	B. 執行済額		21,149	34,339	33,549		
	うち交付金充当額		16,918	27,470	26,839		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		98.8%	98.2%	94.4%		
予算の状況の説明		予算の増減額については、通勤手当の支給が平成28年度4月より開始したため、9月補正にて増額変更を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	町立小学校 5校へ配置	目標	( 6名 )	( 5校 )	( 5校 )	( )	
		実績	6名	5校	5校		
	町立中学校 2校へ配置	目標	( 3名 )	( 2校 )	( 2校 )	( )	
		実績	3名	2校	2校		
達成状況説明	平成28年4月~平成29年3月まで町内の上本部小2名(実施教科:国語・算数), 本部小3名(実施教科:国語・算数), 崎本部小1名(実施教科:国語・算数), 瀬底小1名(実施教科:国語・算数), 伊豆味小中1名(実施教科:国語・算数), 上本部中1名(実施教科:数学), 本部中3名(実施教科:国語・数学・英語)の合計12名を配置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	・全国学力調査での全国平均との差 ①小学校 総合点 全国平均以上を維持 ※H27年の差 +3.2ポイント 全国平均 63.9ポイント 本町 67.1ポイント	目標	( )	( 全国平均以上 )	( 全国平均以上 )	( )	( )
		実績		-2.3	-7.2		
	・全国学力調査での全国平均との差 ②中学校 総合点 前年比2ポイント以上の向上 ※H27年の前年度との差 +2ポイント H26年 50.9ポイント H27年 52.9ポイント	目標	( )	( 5ポイント以内 )	( 2ポイント以上の向上 )	( )	( )
		実績		-12.7	-5.8		
	進捗状況説明	全国学力・学習状況調査での全国平均との差について小学校では、全国平均64.2 本部町57.0ポイントで目標を下回った。中学校では、全国平均65.6 本部町59.8ポイントで目標には及ばなかった。要因としては、本町は大規模校と小規模校の学校があり、小学校の小規模校は目標値を上回ったが、大規模校が目標値を下回った。中学校においては、H27では-12.7ポイント、H28では-5.8ポイントと目標には及ばなかったが、大幅に改善することができた。					

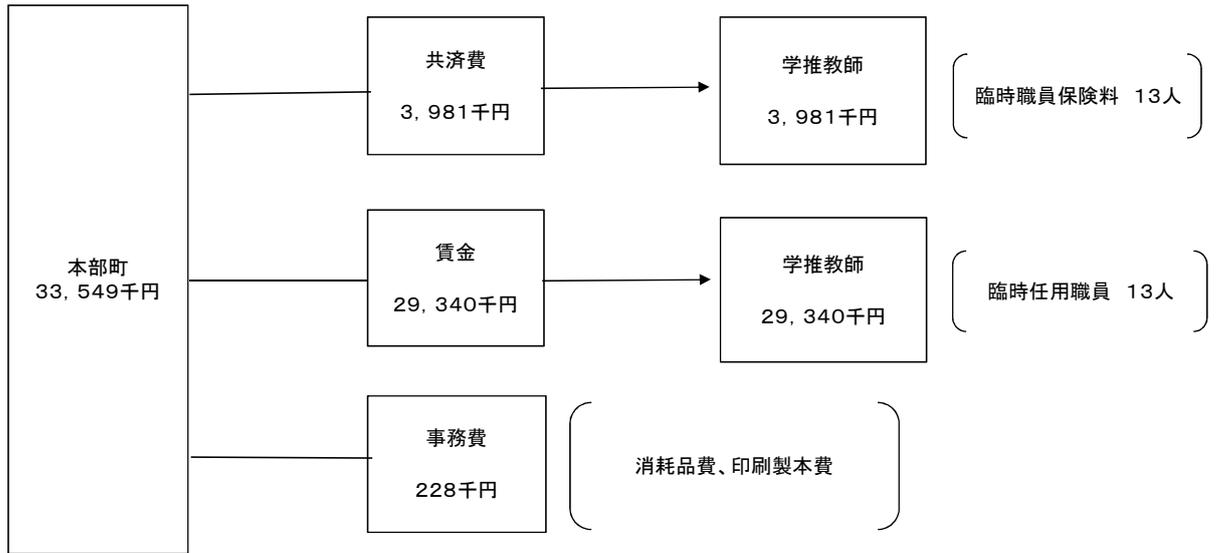
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>沖縄県は全国において児童生徒の学力が低い。中でも国頭地区、本部町は慢性的に学力が低位にある。学力低下が教育行政の最重要課題である中、小中学校に学推教師を配置し、学習に遅れのある児童生徒に適切な支援を行うことで、学力の底上げを図る。</p> <p>平成28年度全国学力・学習状況調査結果を見ると、小学校においては全国平均を上回ることができなかった。中学校においても上回ることができなかった。</p>	<p>本町の課題は低得点層とある程度得点する生徒の「学力の2極化」が原因である。対策として、国語科においては言語事項を多く取り入れたり、文章を書かせる等を設定していく。数学科においては、図形の領域や文章題に課題があるので、つまづきに応じたきめ細やかな支援をしていくと同時に、学推教師の活用を今後も推進し、学力向上の改善を図ってきたい。</p>

**今後の取り組み方針**

定期的に学推教師を招集して研修会を持ち、諸調査(町学力調査、県学力到達度調査)の分析結果を踏まえて、落ち込みのある部分については個別の支援をしていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
33,549	33,549	26,839	6,710	0



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○学習支援員の雇用は条例、規則に則りなされており妥当である。</p> <p>○予算全体の99%を占める人件費は県最低賃金と本部町の規程を考慮しており、適正な予算規模である。</p> <p>○費用・使途が事業費確定時に必要性を確認し、町が毎月執行状況を確認しており、適正である。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	本部っ子短期留学チャレンジ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-イ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	世界と共生する社会の形成 III-3-(1)		
事業内容	夏休みを利用し、町内の中高生を英語圏へ短期間派遣し、ホームステイを実施する。生きた英語に触れることにより、今後の英語学習への意欲を高め、また異文化を体験することにより、広い視野で物事を捉える人材育成を目指す。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
	<b>予算の状況</b>	(a) 当初予算額	3,200	4,800			
		(b) 予算現額	3,200	4,800			
		(c) 増減額(b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		3,200	4,800			
	B. 執行済額		3,175	4,584			
	うち交付金充当額		2,540	3,667			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.2%	95.5%			
<b>予算の状況の説明</b>		当初の計画通り留学派遣の補助ができ、予算を適正に執行できた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	町内の中高生を英語圏へ短期間派遣(2週間)	目標	( 短期間派遣 )	( 短期間派遣 )	( )	( )	
		実績	短期間派遣	短期間派遣			
		目標	( )	( )	( )	( )	
		実績					
<b>達成状況説明</b>	目標のとおり業務を遂行し、高校生6名、中学生6名の計12名をアメリカ合衆国(ハワイ州ホノルル近郊)へ、平成28年7月26日～8月9日(15日間)の間、短期派遣することができた。 また、派遣生の募集を2週間(平成28年4月12日～26日)実施、募集人数12名以内の枠に41名の応募があった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	事業実施後の英検合格率25%	目標	( )	( 25% )	( )	( )	( )
		実績		33%			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	<b>進捗状況説明</b>	短期留学後、事業報告会を実施し、派遣生徒が個々にパワーポイントを使用し、約10分程度の報告を行った。その中で、「もっと英語を勉強し、外国人とコミュニケーションがとれるようになりたい」、「英語力だけでなく人間としても大きく成長できた」など、異文化を体験することにより英語学習への関心及び意欲向上が芽生え、チャレンジする人材育成を図ることができた。 H29年3月に派遣生へ英語検定の可否調査を実施し、12名の回答を集計した結果、準2級に4名が合格しており、目標の25%を超える33%の合格率を達成した。					

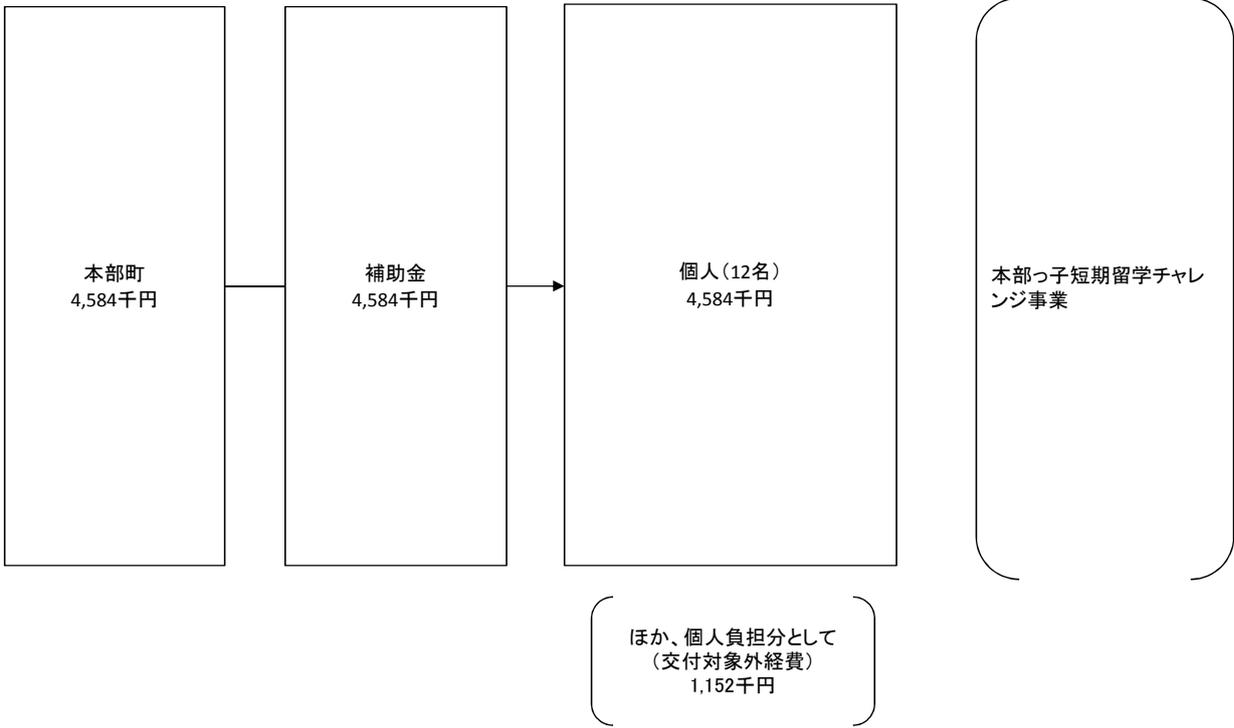
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年度の課題であった派遣生の英語学習へのチャレンジ精神を検証するために、実用英語技能検定を受験することをH28年度より応募資格に追加し、また成果目標を実用英語技能検定合格率25%へ変更した。</li> <li>・応募人数がH27年度61名、H28年度41名と減ってはいるが、以前として派遣人数を超える応募があり、中高生の関心が高い中で派遣人数枠の拡充を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H28年度より成果目標を実用英語技能検定合格率25%にしたが、それだけでは事業の目的である「異文化体験することにより、広い視野で物事を捉える人材育成」の成果としては、十分ではないと思われるため、その他の成果目標指標の検討を図る必要がある。</li> <li>・12名からさらに派遣人数を拡充し、チャレンジする意欲のある中高生にチャンスを与え、将来を担うグローバルな視野を持つ人材育成を目指す。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・異文化を体験することにより、広い視野で物事を捉える人材育成の成果を検証するための指標の見直しを検討する。
- ・派遣人数を12名から15名へ拡充し、多くの中高生が英語圏への短期留学へ行く機会を与え、生きた英語に触れ、国際語である英語学習への関心及び意欲向上を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,736	4,584	3,667	917	1,152



資金の流 れ、費 目・ 使途の 点検・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法については、学校長からの推薦があった生徒を、選考審査会にて審査し、派遣生の決定を行っており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係については、本部っ子短期留学チャレンジ支援補助金交付要綱に沿っているため妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途に関しては額の確定時において確認を行い適正であった。

市町村名	本部町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-③	学校ICT機器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-7	
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成28～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 Ⅲ-3	
事業内容	将来の沖縄振興を担う子どもたちの学力及び情報活用能力の向上を図るため、町内小中学校のICT環境整備(全教室の無線LAN整備、タブレットPC等の導入)及びICT活用支援員を配置し、ICT機器の活用によるICT教育の推進を通じ、児童生徒の学力及び情報活用能力の定着、向上を図る。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	<b>予算の状況</b>	(a)当初予算額	12,528				
		(b)予算現額	12,528				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	12,528				
	<b>B.執行済額</b>	うち交付金充当額	9,763				
		次年度繰越額	0				
		執行率(%) (B/A)	97.4%				
	<b>予算の状況の説明</b>	不用額324千円については、委託入札残によるものであり、予算は適正に執行できた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	26年度	27年度	28年度	
	無線LANの環境整備    3校	目標	(無線環境整備3校)	( )	( )	( )	
		実績	無線環境整備3校				
	タブレット等の購入設置    65台	目標	(タブレット等の設置65台)	( )	( )	( )	
		実績	タブレット等の設置65台				
	大型モニタ等の購入設置    11台	目標	(大型モニタ等の設置11台)	( )	( )	( )	
		実績	大型モニタ等の設置11台				
	ICT活用支援員    1名配置	目標	(1人配置)	( )	( )	( )	
		実績	1人配置				
<b>達成状況説明</b>	整備した無線LANの環境を利用し、購入したタブレット、大型モニタ等を使用し、ICT支援員を活用した教材の視覚化、明確化による分かりやすい授業を行うことで、教師と児童生徒、児童生徒同士の協働学習を推進し、学習への興味、関心を高めつつ情報活用能力及び基礎学力の向上、定着化を図ることができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	本部町学力調査において対前年比で2ポイント向上。	目標	( )	(2ポイント向上)	( )	( )	( )
		実績		2.34ポイント向上			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	<b>進捗状況説明</b>	ICT機器を活用することで、通常の授業よりも児童生徒が興味関心を持つ授業を展開することができた。支援ソフトやICT支援員を活用することで、より良い授業を行うことができたと考えられる。成果目標である本部町学力調査において、教科別の内訳で見ると国語の前年平均60.17ポイント、今年度平均62.02ポイント、対前年対比平均1.85ポイントの向上。算数、数学においては、前年平均61.33ポイント、今年度平均61.46ポイント、対前年対比平均0.13ポイントの向上。英語においては、前年平均59.95ポイント、今年度平均65.00ポイント、対前年対比平均5.05ポイントの向上。3教科平均2.34ポイント向上した。					

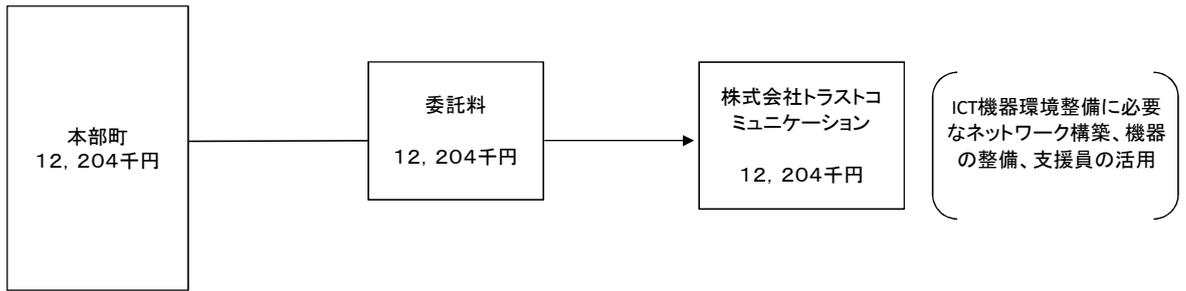
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>沖縄県の学力は、全国的に下位に位置する状況が続いており、近年学力の向上の傾向が見られるが、安定的に定着しているとはいえない現状である。本事業を通じて、ICT機器を活用することにより、児童生徒の興味・関心を高めながら、基礎学力及び情報活用能力の向上と定着化を図っていく必要がある。また、個人のタブレットではなく、学校全体で1学年分の台数を全校児童生徒で共有し、活用するため、授業中に児童生徒が作成したデータや、解いた問題のデータの保存が困難といった問題が生じた。</p>	<p>個人の作成したデータや解いた問題のデータを保存できるアプリソフト、クラウド等を活用し、本体にデータを保存しなくても、各児童生徒それぞれが作成したデータ等を保存できる環境を構築し、そのデータを積み上げることで基礎学力及び情報活用能力の向上と定着化を図っていく。</p>

**今後の取り組み方針**

ICT機器を活用することで、通常の授業では行うことが難しい様々な授業カリキュラムを新規で行うことができ、授業の中の1つのツールとして活用していくことで、様々な事を行うことができると考えられる。今回導入したロイノートスクールは、協働学習を中心としたツールの1つとして活用しつつ、他の学習アプリソフト等を併用して活用していくことや、各児童生徒それぞれが作成したデータ等を保存できるネットワーク環境を構築することで、児童生徒の興味・関心を高めながら、基礎学力及び情報活用能力の向上と定着化を図っていききたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,204	12,204	9,763	2,441	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託業者は指名競争入札にて選定しており、妥当であった。</p> <p>○不用額は、事業費の3%以内であり適正な規模であった。</p> <p>○費目・用途に関しては、精算段階にて検査を実施し、目的に則し必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	本部町						
<b>平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	4-④	特別支援教育環境充実事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ウ		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	時代に対応する魅力ある学校づくりの推進 Ⅲ-3		
事業内容	教育の振興を図るため、特別な支援を要する幼児児童生徒(心身の障害及び発達障害)に対し、特別支援教育支援員の配置及びスクールソーシャルワーカーを配置することで、個々に応じた適切に必要な支援を行う。特別支援教育支援員、スクールソーシャルワーカー、担任教師・教諭との連携による特別支援教育環境の向上、充実を推進する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	36,926				
		(b) 予算現額	37,394				
		(c) 増減額 (b-a)	468				
		(d) 繰越額	-				
	A. 計 (b+d)		37,394				
	B. 執行済額		31,640				
	うち交付金充当額		25,312				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		84.6%				
予算の状況の説明		平成29年3月に本部町臨時職員に対する通勤手当の支給が決定、4月から支給開始したことに伴い、9月補正において468千円を増額変更した(6月時点の特別支援員雇用者数20名×8ヵ月:8月～3月)。その後、夏休み期間中の特別教育支援員の出勤を事業実績から省いたこと及び年度途中で退職した同支援員がいたことにより、当初予算額より多くの不用額が発生した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	26年度	27年度	28年度	
	特別支援教育支援員 20名配置	目標	小学校11名配置 中学校6名配置 幼稚園3名配置	( )	( )	( )	( )
		実績	小学校11名配置 中学校6名配置 幼稚園3名配置				
	スクールソーシャルワーカー 1名配置	目標	1名配置	( )	( )	( )	( )
		実績	1名配置				
達成状況説明	平成28年4月～29年3月まで町内の上本部小2名、本部小5名、崎本部小2名、瀬底小1名、伊豆味小中2名(小1名、中1名)、上本部中2名、本部中3名、本部幼稚園2名、上本部幼稚園1名の合計20名を配置した。本部町にスクールソーシャルワーカーを1名雇用し、配置計画を基に各学校へ配置した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	特別な支援を要する幼児児童生徒へ支援の充足率70%	目標	( )	(充足率70%)	( )	( )	( )
		実績		充足率80%			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
	進捗状況説明	特別な支援を要する園児、児童生徒への支援や、スクールソーシャルワーカーの活用による支援が目標値である充足率70%(支援を要する園児、児童生徒が10人いる場合、10人に対して支援を行えた場合充足率は100%となる)を大きく上回る80%という結果となった。目標値を大きく上回る結果となった要因としては、スクールソーシャルワーカーによる支援充足率が100%とであったこと、多数の学校にて配置した支援員の数が適正だったと考えられる。支援を必要とする園児、児童生徒への支援により、不登校生徒の改善や、情緒障害等の沈黙化、肢体不自由な児童生徒の円滑な教育参加といった、教育環境の充実化が図られた。					

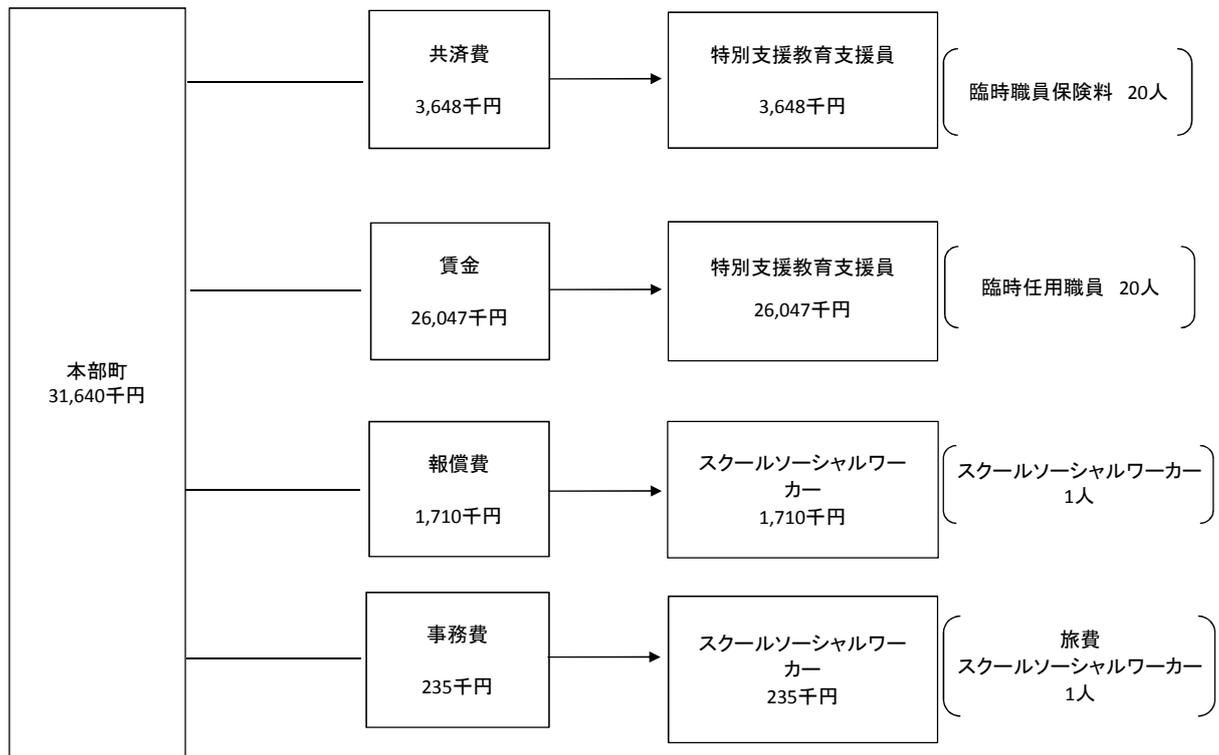
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	教育現場において様々な課題を抱えている園児、児童生徒への支援を充実させることにより、より良い教育環境の実現が可能だと考えられる。本事業において支援を要する園児、児童生徒への個々の状況に応じた支援を行っているが、担当支援員以外の支援員が支援する場合に、注意事項の連絡不足などによるきめ細かな支援が行えなかったという課題が発生した。	教諭、特別支援教育支援員及びスクールソーシャルワーカーとの連携を密にし、学校全体での支援体制の充実化をはかることで、推進上の問題点の解決が図られると考えられる。

**今後の取り組み方針**

町教育委員会による支援教育研修会の内容充実や、他校の支援員との情報交換、担任や教諭、特別支援教育支援員、スクールソーシャルワーカーの3者による支援の連携体制を密にすることで、より効果的な支援体制が構築できると考えられる。今後の取り組みとしては、研修会、ケース会議、連絡会等を推奨していき、連携の取れた教育環境の構築を行っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
31,640	31,640	25,312	6,328	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○特別支援教育支援員の雇用は条例、規則に則りなされており妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額5,754千円は、夏休み期間中の特別教育支援員の出勤を事業実績から省いたこと及び年度途中で退職した同支援員がいたことによるものであり、予算規模は事業内容に見合った適正な規模である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途に関しては、出勤日数、月額報酬を確認の上、支出している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		本部町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	世界のムトゥンチュ大会実施事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア	
	担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成28~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-7	
事業内容	本部町出身海外移住者とのネットワークの発展のため、世界のウチナーンチュ大会の実施と同時期に移住者やその子弟などと本部町民との親善交流会(世界のムトゥンチュ大会)を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,153				
		(b)予算現額	4,153				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額					
	A. 計(b+d)		4,153				
	B. 執行済額		3,581				
	うち交付金充当額		2,865				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		86.2%				
予算の状況の説明		不用額572千円については、委託費の概算契約による精算残と需用費(消耗品費)の執行残によるものであり、当初計画していた事業内容は実施することができた他、活動目標・成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	世界のムトゥンチュ大会 10月28日実施	目標	( 10月28日大会実施 )	( )	( )	( )	
		実績	10月28日大会実施				
	沖縄文化鑑賞出演者(文化協会 3部会、町内各種団体 3団体)	目標	( 文化協会3部会 町内各種団体3団体 )	( )	( )	( )	
		実績	文化協会3部会 町内各種団体4団体				
	海外町人会活動紹介 3団体	目標	( 3団体 )	( )	( )	( )	
実績		4団体					
達成状況説明	世界のムトゥンチュ大会を10月28日に開催し、同大会において本町から海外へ雄飛した移住者やその子弟へ町内で活動する団体による琉球舞踊やエイサーなどの沖縄文化鑑賞を実施。また海外にある本部町人会等の活動について発表してもらい交流を深めた。海外町人会のみならず他国の類似団体にも活動紹介を依頼したことにより目標を上回ることができた。会場内に移民当初と現在の本町の様子や風景の写真を展示したことで、参加者同士昔を懐かしむ様子がうかがえた。故郷のうつり変わりを海外参加者へ伝えることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	世界のムトゥンチュ海外大会参加者 100名	目標	( )	( 100名 )	( )	( )	( )
		実績		107名			
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	海外参加者は6カ国7地域より107名が参加し目標値を達成することができた。県内参加者も200名を想定していたが、想定を上回り235名の参加となっている。リオオリンピックによる物価高騰の影響も懸念されたが、委託事業者が持つネットワークも活用し、海外へ向け多くの方に大会案内を実施したことが目標達成に繋がったと考えている。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会参加について事前申込みの形をとっていたが、海外・県内参加者ともに当日参加が多くみられ、県内参加者の受付が混雑し時間がかかった。</li> <li>・また、県より事前にウチナンチュ大会に参加する海外の本町出身者の名簿の提供を受けていたが、名簿に載っていない参加者が多かったため、大会会場から宿泊先までの送迎の配車やルートに変更が生じ、組み直すのに苦慮した。</li> <li>・プログラム決定後、いくつかの町内団体より出演したいとの問い合わせがあり、時間の都合上断らざるを得なかったため、次回は出演団体の選定について検討が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外参加者は、県のウチナンチュ大会への申込みをしたことで市町村イベントへも申込みが完了したと思っている方が多くいるため、県の申込みフォーマットにどの市町村イベントへ参加するか選択項目を設けてもらうなど県との連携が必要である。上記の方法により、参加者の手続負担や県から市町村へ情報提供する際のもれ者の軽減に繋がる。</li> <li>・その他、申込み方法について海外へは早い段階から周知を行う。</li> <li>・大会当日の県内参加者の受付は少なくとも4箇所設置し、受付のサイン表示も参加者から見やすい位置に掲示するなど工夫する。あわせて受付方法についても見直しや検討が必要である。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

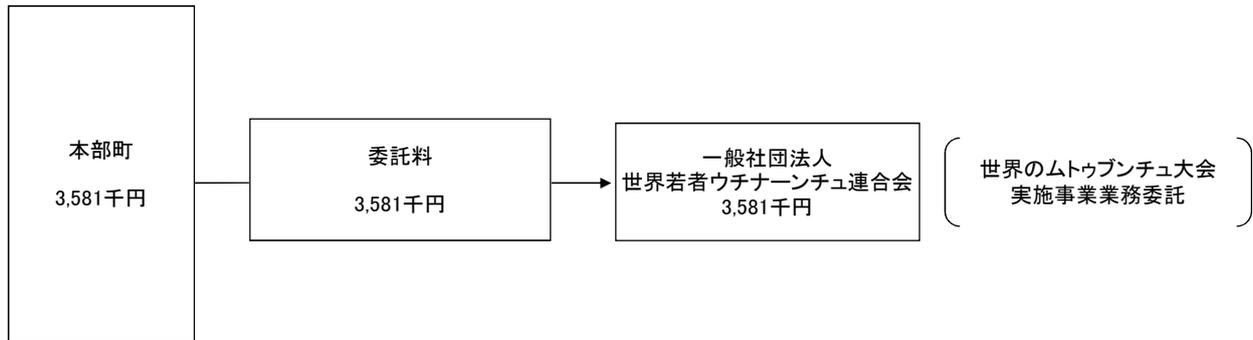
・海外参加者の申込みについては県との連携について働きかけを行う。海外の町人会ネットワークのみならず県人会ネットワークも活用し早い段階から周知を行う。

・出演団体の選定については町内各種団体より募集を行うなど出演の機会を平等に与えられるよう配慮し、海外参加者へ本町の伝統文化を知ってもらい、親善交流を深める場とする。

・今回、海外参加者はファミリー参加や若い世代の参加が多く、今後も3世・4世といった若い世代の参加が見込まれる。そのため当大会で町民と交流することにより町出身者であるというルーツやアイデンティティーの確認と帰属意識の醸成を図り、町人会組織との繋がりを深める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,581	3,581	2,865	716	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により、組織、イベント運営実績、企画内容等を勘察した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容に見合った適正な規模で確保されており妥当である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	